

オープンミドルウェアによるマイグレーションで 開発スピードの向上とコスト低減を両立

セロリー株式会社 ▶ <http://www.selery.co.jp/>

事業競争力強化に向け、システムを柔軟に変更できるIT基盤を構築する企業が増えています。女性用ユニフォームのトップメーカーとして知られるセロリー株式会社(以下、セロリー)は、さらなるスピード経営の実現に向け、メインフレーム上のVOSK基幹システムをオープンシステムへ移行するマイグレーションを決断。

株式会社 日立システムズ(以下、日立システムズ)と日立の支援のもと、^{ハイアールディービー}「COBOL2002」、「HiRDB」、「JP1」などのオープンミドルウェアを活用し、既存資産を「HA8000」のWindows[®]プラットフォーム上へ移行することに成功しました。



Open middleware case study



セロリー株式会社
総務部 システム開発課
課長
米山 晋平氏

セロリー株式会社
総務部 システム開発課
リーダー
諏訪 巧氏

既存資産をそのまま生かしたい

岡山市に本社を構えるセロリーは1966年の創業以来、女性用ユニフォームの企画・製造・販売をトータルに手がけるアパレルメーカーとして業界トップの地位を確立。全国の代理店を通してオフィスを彩る定番品ユニフォームを提供する一方、新規分野の開発にも積極的に取り組んでいます。

同社は1980年代に日立のオフィスコンピュータを導入し、株式会社日立情報システムズ(現・日立システムズ)の支援のもと、販売管理や生産管理をシステム化。その後、IT基盤を日立メインフレームに移行し、近年では「AP7000(VOSK)」で基幹業務を稼働させていました。しかし年々競争が激化するユニフォーム業界において、さらなるスピード経営とコスト低減に寄与するにはオープンシステムへの移行が不可避と判断。2011年にIT基盤の刷新プロジェクトを立ち上げました。

「グローバルな大競争時代を迎えたアパレルユニフォーム業界は、生産・販売形態の多様化が進んでいます。このため現場からはシステム変更の要求が増える一方で、さらなるコスト低減やITを活用した業務効率の向上が求められています。メインフレームは高い堅牢性を備えています。既存のオープン基盤で構築している周辺システムと連携するためのプログラム開発・変更が難しく手間がかかります。そこで基幹系もオープン基盤に移行することで、開発スピードとエンドユーザーの利便性、コストを両立させ、長期的な視点でのスピード経営に寄与したいと考えました。ただし長年培ってきた業務プログラムは当社にとって何よりも大事な財産ですので、既存資産をそのまま生かすことが絶対条件でした」と総務部システム開発課 課長の米山 晋平氏は、その経緯を説明します。

セロリーとともにオープン化を担うSIベンダーには複数社が名

乗りを上げ、最終的に選ばれたのが日立システムズを中心とする日立グループでした。

リスクや負担なく資産を継承できるオープンミドルウェア

「当社が持つCOBOL資産をどのように新システムに移行するのか、複数のベンダーさんに提案をお願いしました。その中で日立システムズさんは既存資産を生かしたマイグレーション、具体的にはCOBOL2002とHiRDBを活用したREAD/WRITE文のストレート移行や、JCLをJP1/Scriptで置き換えた自動化の提案をされました。他のベンダーさんは外資系のミドルウェアをご提案されましたが、それではやはり移行性や今後のサポートに不安が残ります。しかしVOSKからの移行をスムーズに行える日立純正のミドルウェアを活用すれば、大きな負担やリスクもなく稼働中のシステムをそのまま継承することができますし、新システムの運用工数も最小限に抑えられます。これが当社にとっては何よりも大きなメリットになると考えました」と米山氏は振り返ります。

また総務部 システム開発課 リーダーの諏訪 巧氏も、「日立システムズさんは当社のメインフレーム開発を以前から担当されていたことで、プログラムの中身をわれわれ以上に熟知しています。この安心感と長年お付き合いいただいているSEさんへの信頼も、マイグレーションパートナーに選ばせていただいた理由の1つです」と付け加えます。

セロリーと日立システムズは新システムへ移行するプログラムの棚卸しを行った後、オープンミドルウェアを活用した本格的なマイグレーション作業に着手。バッチ処理系のCOBOL85の業務ロジックをCOBOL2002によってそのままコンバージョンする一方、バッチジョブを定義するJCLやNHELPも、オープンミドルウェアと



USER PROFILE

セロリー株式会社

本社 岡山県岡山市南区藤田1678-1
 設立 1969年3月
 資本金 5,500万円
 従業員数 150名(2012年9月1日現在)
 事業概要 オフィスユニフォーム、サービスユニフォームなどの企画、製造、販売

PARTNER PROFILE

株式会社 日立システムズ

<http://www.hitachi-systems.com/>

所在地 東京都品川区大崎1-2-1 大崎フロントタワー
 設立 1962年10月1日
 資本金 19,162百万円
 従業員数 11,081名(2012年3月31日現在/単独)
 事業概要 クラウドソリューション、システム構築、アウトソーシング、システムの運用・保守、海外進出企業のIT環境構築など

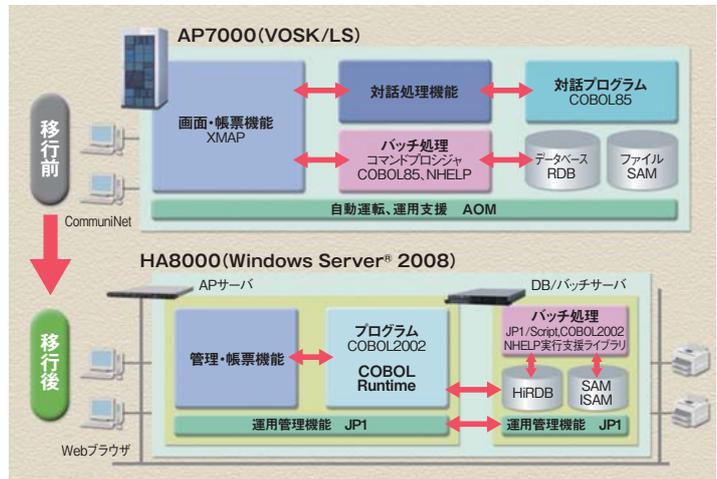
Open middleware case study

専用ツールでストレートに移行することに成功しました。データベースについてもHiRDBの適用で従来どおりのデータベースアクセスを実現し、オープン系周辺システムとの連携も今まで以上にスムーズに行えるようになりました。

さらに、バッチ処理の自動化を高精度に代替する「JP1/AJS3」※とJP1スクリプトによって



セロリーのシステムを支える日立アドバンスサーバ「HA8000」



セロリーに導入されたシステムの概要

COBOLとVisual Basicを連動させたり、Webから既存アプリケーションを実行させたりといった柔軟なジョブ制御が可能となり、メインフレームと同等以上の自動運用を実現。セロリーがメインとなって移行作業を担当した画面系では、周辺システムの開発で使い慣れたASP.NETやVB.NETを使い、「CommuniNet」では制約があった表示項目の拡張とWebライクな操作性を追求し、より直感的で使いやすいユーザーインターフェースが構築されました。

「今回は開発期間とコストとの兼ね合いもあり、私たち2人も移行作業に携わりましたが、日立システムズさんの優れたプロジェクト管理と豊富な移行ノウハウ、そしてオープンミドルウェアの完成度の高さに助けられ、予定どおりにカットオーバーできました。使い方についても、日立さんに問い合わせた際にも非常に的確なサポートがいただける点も感謝しています」と米山氏は笑顔で語ります。

※ JP1/Automatic Job Management System 3

開発性の向上で経営スピードにキャッチアップ

基幹システムの新たなプラットフォームとなったHA8000により、バッチ処理系のスピードは従来の約2倍に向上。それでいてハードウェアとソフトウェアの保守費は大幅に低減し、トータルコストの削減に寄与しています。

「最も大きな効果といえるのが開発スピードと操作性の向上です。従来はメインフレームと周辺システムとの連携が難しく、われわれとしてもユーザーの要求にすべて応えることができませんでした。しかし今では周辺システムとの連携開発や新機能の付加などが非常にスムーズに行えるようになり、経営スピードに無理なく

キャッチアップできるようになりました。具体例を挙げると、在庫画面をクリックすれば対象商品のカタログ画像を見ることができたり、同じ画面から見積書や仕様書なども表示することができたり、こうした業務は以前なら、2つのシステム画面を立ち上げて互いに品番入力して内容を反映するといった作業が必要でした。しかし現在は1つの画面から必要な機能にワンストップでアクセスできます。また、Web画面上に選択肢や操作方法がビジュアルに表示できるので初心者も迷うことがありません。現場からの評価は上々です」と諏訪氏は評価します。

米山氏は今回のプロジェクトを総括し、「日立グループの皆さんのご協力のおかげで、既存資産を生かしながらシステムの将来性と発展性を確保するための重要な基盤を構築することができました。次なるステップは、稼働中のシステムをさらに進化させながら、当社ならではの差別化を図る新機能、新サービスを生み出していくことだと思います」と語ります。そして「営業が使う受発注管理のスマートフォン対応、代理店さまやお客さまが当社のWebサイトから使われるサービスの拡充など、まだまだやるべきことはいくつもあります。そこでも引き続き、日立システムズさんや日立さんのお力を借りていくことになるでしょう」と今後の展開に期待を寄せます。

日立オープンミドルウェアを活用することで、既存資産を有効活用しながら、さらなる競争力強化に向けたIT基盤の構築に成功したセロリー。これからも日立は日立システムズと連携し、高信頼のオープンミドルウェアを核としたサービスプラットフォームの継続的な強化と拡充により、同社の企業価値の向上を力強くサポートしていきます。

お問い合わせ先

HMCC (日立オープンミドルウェア問い合わせセンター)

☎ 0120-55-0504 (利用時間 9:00~12:00 13:00~17:00 土・日・祝日・弊社休日を除く)
 携帯電話、PHS、一部のIP電話など上記フリーダイヤルがご利用いただけない場合 TEL (03) 5439-2733

情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/soft/>